

第 18 回診断病理サマーフェストー病理と臨床の対話 骨軟部腫瘍 開催報告

国立がんセンター中央病院 病理診断科 吉田朗彦（世話人）

【日時・会場・参加者】

第 18 回診断病理サマーフェストは、2024 年 8 月 31 日(土)、9 月 1 日(日)の 2 日間にわたり、東京築地の国立がん研究センター研究棟 大会議室で開催いたしました。あいにく台風 10 号の日本列島上陸と重なり 5 名の講師の先生方には交通事情のため会場にお越しいただけず、急遽講演動画をお送りいただく形となりました。現地開催後、講演内容を 2024 年 9 月 9 日(月)～10 月 4 日(金)Webでオンデマンド配信いたしました。全参加者は 777 名で、現地参加は 83 名でした。内訳は一般参加:614 名(現地:52 名・Web:562 名)、初期・後期研修医、大学院生、臨床検査技師:139 名(現地:14 名・Web:125 名)、診断病理サマーフェスト委員・講師・スタッフ:24 名(現地:17 名・Web:7 名)でした。病理以外のご所属(放射線科、外科、内科など)の方にも 60 名ほどご参加いただきました。

【内容の概要(企画の趣旨、特色、感想など)】

骨軟部腫瘍をテーマに企画を行いました。タイプが多く頻度の低い腫瘍の分野であるため、年齢、部位、組織型など、さまざまな切り口で勉強していただけるようプログラムを組みました。診断の側面では、実際に最前線で活躍されている講師の先生から具体的なコツを勉強できる場として、充実した講習会であったと思います。またさらに、「病理と臨床の対話」というサブタイトルを重視し、講師 16 名のうち病理以外を専門とする先生方を 7 名お招きできたことで、病理診断が患者さんの診療とどのように絡み合っているのかを、立体的に理解することができるよい機会になったように思います。これまで聞いたことがないようなお話もいろいろあり、面白かった、驚いた、という嬉しい声もいただきました。ご参加の皆様、講師の先生方、サマーフェスト委員の先生方、病理学会事務局の方々、また運営を支えてくださったスタッフの皆様に心より御礼申し上げます。

【プログラム(演題名と演者)】

2024 年 8 月 31 日(土)

- ・ 骨軟部腫瘍病理の基礎的事項 (吉田 朗彦)
- ・ 骨軟部腫瘍の画像診断 (植野 映子)
- ・ 骨腫瘍の病理 (小西 英一)
- ・ 骨腫瘍の臨床 (遠藤 誠)
- ・ 成人四肢・体幹壁軟部腫瘍の病理 I (元井 亨)
- ・ 成人四肢・体幹壁軟部腫瘍の病理 II (久岡 正典)
- ・ 成人四肢・体幹壁軟部腫瘍の臨床(筑紫 聡)

- ・ 腹腔・後腹膜軟部腫瘍の病理（山元 英崇）
- ・ 後腹膜軟部腫瘍の臨床（込山 元清）

2024 年 9 月 1 日(日)

- ・ 横紋筋肉腫と小児軟部腫瘍の病理（孝橋 賢一）
- ・ 小円形細胞肉腫の病理(牧瀬 尚大)
- ・ 血管肉腫とその鑑別(山下 享子)
- ・ 末梢神経鞘腫瘍の病理(吉田 研一)
- ・ 軟部肉腫の薬物療法—標準治療と新展開(仲野 兼司)
- ・ 小児骨軟部腫瘍の臨床と課題（荒川 歩）
- ・ 骨軟部腫瘍の遺伝子パネル検査と症候群（平田 真）

【講師と所属】(講演順)

吉田 朗彦	国立がん研究センター中央病院病理診断科
植野 映子	がん研究会有明病院画像診断部
小西 英一	京都府立医科大学人体病理学
遠藤 誠	九州大学整形外科
元井 亨	東京都立駒込病院病理科
久岡 正典	産業医科大学医学部第 1 病理学
筑紫 聡	愛知県がんセンター整形外科
山元 英崇	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病理学(腫瘍病理)
込山 元清	国立がん研究センター中央病院泌尿器科・後腹膜腫瘍科
孝橋 賢一	大阪公立大学診断病理・病理病態学
牧瀬 尚大	千葉県がんセンター臨床病理部
山下 享子	がん研究会有明病院病理部
吉田 研一	大阪国際がんセンター病理・細胞診断科
仲野 兼司	がん研究会有明病院総合腫瘍科
荒川 歩	国立がん研究センター中央病院小児腫瘍科
平田 真	国立がん研究センター中央病院遺伝子診療部門